



いちよう

山形市立第四小学校

校長 樋口 潤一

<児童数 175名>

〒990-0055

山形市相生町4番37号

TEL 623-6019

FAX 633-9321

2025 全国学力・学習状況調査結果分析

本年度も4月17日（木）に、全国一斉に全国学力・学習状況調査が実施されました。本号にて、本校第6学年児童の結果についてお知らせいたします。

なお、本調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善のサイクルを確立する。」ことにあります。そのため、本校においても、今回の結果を分析し、教育活動の改善に生かしてまいります。

山形市教育委員会から発出された「小学校：6学年保護者の皆様へ」の資料も先月、別紙でお配りいたしました。今回の資料と併せてお読みください。

1 学力調査の結果について

(1) 全国と比べた本校の平均正答率（参考：山形県、山形市の平均正答率）

	国語	算数	理科
本校	74	65	68
全国	66.8	58.0	57.1
山形市	68	57	59
山形県	65	55	58

(2) 特に力がついていると言える点

- ①国語
 - ・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
 - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること。
- ②算数
 - ・小数の加法について、数の相対的な大きさをを用いて共通する単位を捉えること。
 - ・ともなって変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉で記述すること。
- ③理科
 - ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて結果をもとに結論を導いた理由を表現すること。

(3) 課題として力をつけていきたい点

- ①国語
 - ・情報と情報との関係付の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
 - ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、要旨を把握すること。
- ②算数
 - ・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述すること。

- ・分数の加法について、共通する単位分数を見だし加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること。

③理科 ・水が氷に関わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現すること。

2 児童質問紙の結果について ※市教委の資料に合わせて項目を選択しています。

(1) 当てはまる、やや当てはまる児童の割合

①【家庭生活に関わること】 (%)

項 目		本 校	全 国	山形市	山形県	
1	平日の家庭学習時間	30分未満	3.7	18.6	9.1	10.5
		2時間以上	33.3	24.9	20.5	19.9
2	新聞を週1回以上読んでいる	22.2	10.5	12.2	11.4	
3	朝食を毎日食べている	100.0	93.7	95.5	95.2	

②【自分自身に関わること】 (%)

項 目		本 校	全 国	山形市	山形県
1	自分にはよいところがある(自尊感情)	92.6	86.9	85.7	87.9
2	いじめはどんな理由があってもいけない	92.6	97.2	97.4	97.9
3	人の役に立つ人間になりたい	96.3	96.4	97.2	97.2
4	将来の夢や目標を持っている	85.2	83.1	81.5	82.6

(2) 結果を踏まえた今後の対応

- ① 平日2時間以上家庭学習に取り組んでいる児童は33.3%、30分未満の児童は3.7%になっており、取り組む時間の差が大きくなっているようです。時間だけでなく学習の質も大切ですが、各学年に応じた家庭学習の時間はしっかり確保したいところです。低学年のうちからしっかり習慣化できるように、学校と家庭と連携して指導・声掛けをしていきたいと思えます。
- ② 「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は、全国に比べて高い傾向にあり、子どもたちは自分の未来に前向きに思い描いていることが分かります。一方で、「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童は全国や県の平均に比べてやや低い傾向にありました。「自分のため」だけでなく、「人のため」「社会のため」と結び付けて考える力を育てていくためにも、奨学会をはじめ、同窓会や地域の皆様の思いや願いのこもった、四小の文化をこれからも大切につないでいきたいと思えます。
- ③ 児童一人一人が自己のよさを実感することができるように、引き続き、「愛情と信頼」に基づく、人と人のつながりを大切にした教育活動を展開していきます。いじめについても、いじめはどんな理由があってもいけないことを継続して啓蒙しながら、学校のいじめ防止対策委員会を核にして、迅速に情報を共有し、家庭・地域と連携して解決していきます。

この全国学力・学習状況調査は、学校や児童の状況を把握する一つの方法です。児童がよりよく育つ教育活動を行うために、ここで見えた課題を含め、引き続き保護者や地域の皆様とともに児童の成長を支えてまいります。